FEATURE 01

## 私たちは、子どもたちが本来持っている根っこの部分＝「生きる力」を大切に育て、心も体も健やかに成長できる教育を実践しています。

毎日園庭で保育者と一緒のかけっこ、クラスでの活動をとおして表現力、姿勢、意欲を育みます。これにより情緒が安定し、物事に対する気持ちが積極的に現れ、自己表現力が豊かになって人として礎が出来てきます。
このような経験は将来土台となる子どもたち自身にある根っこの部分「生きる力」が育っていきます。

こどもたちが毎日の生活の中で、安心して人と関わり、自分の気持ちを表現し、「やってみたい」という意欲を持つことにつながる大切な経験です。
例えば、保育者と一緒にかけっこをする中では、走る楽しさや身体を動かす心地よさを感じるだけでなく、「先生と一緒にやってみよう」「もっと速く走ってみたい」という気持ちが生まれます。
また、友達と一緒に活動することで、順番を待つことや相手を意識すること、ルールを守ることなど、人と関わるために必要な力も少しずつ身についていきます。
クラスでの活動においても、子どもが自分で考えたり、感じたりしたことを、言葉や表情、動きなどで表現することを大切にします。自分の気持ちを表す経験を重ねることで、「自分のことを分かってもらえる」という安心感につながり、次第に自信を持って自分の思いや考えを表現できるようになります。
また、毎日の生活の中で保育者に温かく見守られ、受け止めてもらうことで、子どもの情緒は安定していきます。
安心できる環境があるからこそ、子どもは失敗を恐れずに新しいことに挑戦したり、うまくいかないときにももう一度やってみようとしたりすることができます。この「やってみたい」「挑戦してみよう」という気持ちこそが、子どもの意欲を育てる大切な一歩です。
さらに、自分の気持ちを表現できるようになると、友達との関わりも豊かになっていきます。嬉しいときには一緒に喜び、困ったときには助けを求め、相手の気持ちにも少しずつ目を向けられるようになります。
このような経験を積み重ねることで、自己表現する力だけでなく、人と関わる力や相手を思いやる気持ちも育まれていきます。幼児期に身につくこうした力は、すぐに目に見える成果として表れるものばかりではありません。しかし、日々の小さな経験の積み重ねが、将来の子どもたちを支える大切な基礎となります。
さまざまな能力が大きく成長していくためには、その土台となる「根っこ」が必要です。子どもたちにとって、その根っこにあたるものが、安心感、自信、意欲、自己表現力、人と関わる力、そして「やってみよう」と挑戦する気持ちです。

FEATURE 02

## 健康な心と体は、子どもたちの心を落ち着かせると共に、豊かな心情や態度を育みます

「当園は広い園庭で思う存分動くことで部屋に戻ってきてからも落ち着いて活動に集中することができます。又、子ども同士のかかわりが各クラスからすべて見渡せることから、園庭での保育者との距離も垣間見ることができます。」

当園では、広々とした園庭で子どもたちが走ったり遊具で遊んだり又友達と一緒に遊びを考えたりするなど伸び伸びと身体を動かして遊ぶことができます。
一人ひとりが自分の興味や体力に合わせて、思う存分身体を動かすことで心身ともに満足感や充実感を味わい、室内に戻ってからも気持ちを切り替え、落ち着いて次の活動に集中することにつながっています。

また、広い園庭では、各クラスの子どもたちの様子を一望することができるため、クラスの垣根を越えた子ども同士の関わりを大切にしながら保育を行うことができます。
年齢の異なる子どもたちが一緒に遊ぶ中で、年上の子が年下の子を気にかけたり、遊び方を教えたりする姿が見られる一方、年下の子どもたちも年上の子の遊びに興味を持ち、「やってみたい」という気持ちを育んでいます。
このような日々の関わりを通して、思いやりや憧れ、譲り合う気持ちなど、さまざまな人との関わり方を自然に学んでいきます。

さらに、園庭全体を見渡せる環境は、保育者にとっても子どもたち一人ひとりの姿を捉えやすいという利点があります。子ども同士の遊びや関わりだけでなく、子どもがどのような場面で保育者に助けを求めるのか、どのような時に安心して自分から遊びを広げていくのかなど、子どもと保育者との距離感や信頼関係も感じ取ることができます。

FEATURE 03

## 日々の生活の中で生まれる友達同士の連帯感は、お互いの活力を高め、情緒の安定をもたらします

「園外保育を多く取り入れています。季節を通して自然に触れ合い、又、社会体験することは次のステップの基礎となるからです。友達同士で初めて見たり、聞いたり触れたりすることはお互いが共感し、刺激を受けることはこれから先、代えがたい経験となります」

当園では、園外保育を積極的に取り入れています。園の外へ出かけ、季節の移り変わりを感じながら自然に触れたり、さまざまな場所を訪れたりすることは、子どもたちの豊かな感性や好奇心を育む大切な経験だと考えています。春には草花や新緑、夏には虫取りや水遊び、秋には木々の葉や木の実など、季節ごとに異なる自然に触れることで、子どもたちは五感を通して多くのことを感じ、発見していきます。また、園外に出ることで、園内では経験できないさまざまな社会体験をすることができます。公共施設を利用したり、スクールバスや交通機関を利用したりする中で、社会の中で生活するためのルールやマナーを少しずつ身につけていきます。こうした経験の一つひとつが、子どもたちの「やってみたい」「もっと知りたい」という気持ちにつながり、これからの成長や次のステップへ進むための大切な基礎となります。特に、友達と一緒に園外へ出かけることには大きな意味があります。初めて見るもの、初めて聞く音、初めて触れるものに出会った時、「見て！」「何だろう？」「おもしろいね」と、子ども同士で気持ちを伝え合い、共感する姿が見られます。同じものを見ても感じ方は一人ひとり異なり、友達の発見や言葉に刺激を受けることで、自分一人では気づかなかったことにも目を向けるようになります。また、友達と一緒に「きれいだね」「不思議だね」「やってみたいね」と気持ちを共有する経験は、人と関わる楽しさや、相手の気持ちに寄り添う心を育てることにもつながります。楽しい発見だけでなく、思うようにいかなかったり、友達と意見が違ったりする経験も、子どもたちにとっては大切な学びです。園外保育で出会う自然や人、場所、出来事は、その場限りの経験ではありません。そこで感じた驚きや喜び、友達と共有した思い出が、その後の遊びや会話、興味関心へとつながり、子どもたちの中に少しずつ積み重なっていきます。当園では、こうした「実際に見て、聞いて、触れて、感じる」体験を大切にし、子どもたちが友達と一緒にさまざまな発見や感動を共有できる機会をこれからも大切にしていきたいと考えています。一人ひとりの心に残る体験の積み重ねが、豊かな感性や社会性を育み、これから先の成長を支えるかけがえのない財産になると考えています。